



## 2・異文化理解と自文化中心主義

2025.5.13-3限

2025年度島原市医師会看護学校-文化人類学

1



### 【再】文化人類学の基本事項 (2)

---

4. 世の中にはいろいろな文化が並存している = どこにでも**異文化**がある
  - 別に海外に出かけなくても、どこにでも異文化に接することができる
5. 異文化は、簡単には受け入れがたいこともある
  - 食文化などに感じるカルチャーショック
  - 生・死の概念、病気と健康に関する概念の違いもある？
6. 異文化理解には、**コミュニケーション**が必須である
  - なぜそういうルール・やりかたなのかは、ちゃんと聞いてみないとわからない
  - 自分自身の持っているルール・やりかたも、自分でわかっていないと説明できないし、相手のこともわからない

2025/5/13-3限                      2・異文化理解と自文化中心主義                      2

2



## 「なまる（訛る）」という表現について

- 辞書では次のように説明されている
  - なま・る【訛】〔自ラ五(四)〕言葉や発音がくずれる。また、そのような言い方をする。標準的でない言い方をする。よこなまる。(日本国語大辞典)
  - なま・る【訛る】〔自五〕標準的な言い方・発音とは違った、ある地方独特の言い方・発音になる。(広辞苑第6版)
  - なま・る【訛る】(動ラ五)言葉や発音がくずれる。また、標準語・共通語とは異なった言い方や発音をする。「この地方ではセをシェとなまる」(大辞林第3版)
- 表現は微妙だが、「なまる」には、「くずれる」というニュアンスが含まれている、と言ってよさそうである
  - 「くずれる」は、プラスの意味だろうか、マイナスの意味だろうか？

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 3

3



## キーワード1：自文化中心主義

- 意味：
  - 自分の文化が普通であたりまえで、それとは違う文化を変だ・おかしいと決めつける考え方
- ポイント：
  - 「自己中」と同じことなので、相手（異文化）を理解する妨げとなる
- 注意点：
  - ひとは誰も成長の過程で「自文化」を獲得するため、どんな人でも必ず「自文化中心主義」にとらわれている

**「なまる」という表現は、自文化中心主義と関係している**

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 4

4



## キーワード2：文化相対主義

- 意味：
  - 自文化中心主義とは逆のみかた・考え方、つまり「相手の立場・文化・価値観を（自分もそうして欲しいように）尊重する」みかた・考え方
- ポイント：
  - 相手（異文化）を尊重するために「相手も自分と同じように、立派な文化を持っている」と考える
- 注意点：
  - 単純に、相手をそのまま100%受け入れることとは違う……それでは「自分」がなくなってしまう
  - 逆に「お互いに文化・価値観が違うんだから、しょうがない」と諦めてしまうこととも違う（それは「理解」とは言えない）

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 5

5



## 映像資料「広州市場」

- 市場で売られているものを、ノートに書き取りながら、まず観る
- 市場では**ある動物**が食用として売られている。つまり「そのある動物を食べるという〈異文化〉」がそこに存在することになる。

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 6

6



## まず「自分は」どう思いましたか？

---

1. 絶対許せない
2. 自分の知らないところでやってほしい
3. 自分は食べないがあなたが好きならどうぞ
4. 勧められたら食べてもよい
5. 食べる機会があれば食べたい
6. 自分も食べたことがある

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 7

7



## 猫食にどう向き合うか

---

- まず大事な点は、1から6までのスタンスに、善悪が存在するわけでは「ない」
  - 真剣に考えて出た答えであれば、**どれも正当**である
- 次に重要なのは、「1 絶対に許せない」から「6 自分も食べた」へと順々に進みさえすれば、異文化理解が実現するわけでも「ない」
  - 「食べたらわかる」という単純な話ではないし、「食べなければわからない」という話でもない
  - 「食べる」ことと「わかる（理解する）」ということは、本来別の次元

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 8

8



## 「ヘンな文化」という考え

- 「日本人の感覚からすると、ねこはペットであって、食べるものではない」→「**ヘンな食文化だ**」
  - 土を食べる民族もいれば、カブトムシの幼虫をごちそうとする民族もいるし、豚の血液をおいしいとする民族もいる
  - たまごかけごはん最高！という文化もあれば、生卵なんて食べものじゃないという文化もある
  - が、大事なのは、絶対的に・誰から見ても「変わっている」食物・食文化というのはない、ということ
- 「ヘンな文化だ」という考え方の裏には「**自分たちはヘンじゃない**」という前提がある
- これは、日本人だけでなく、世界のひとびとに共通する普遍的な考え方 = **自文化中心主義 ethno-centrism**
- 「異文化理解」においては自文化中心主義はとても厄介

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 9

9



## 異文化へのスタンス

- 「自分たちの文化とは違う」という文化の差異に対して、どのようなスタンスで臨むのか？
  - とりあえず「**自文化中心主義**」には注意が必要であるが……
- 1. 「ふーん、そうなんだ、ま、それもありじゃん？」……それは実はそれ以上の理解をやめてしまっている**思考停止**では？
- 2. 「わかりました、あなたのやりかたを100%受け入れ、実行します」……それは「**自文化否定主義**」みたいなもので、長くは続かないのでは？
- 3. 「よーし、食べてみたぞ、これでおれはお前のことがよくわかった！」……そんなに**話は単純ではない**だろう（じゃあ、ピザを食べたらイタリア人のことがわかるのか？）
- 4. 「わたしはわたし、あなたはあなた、お互いとやかく言われたくないでしょう？ だから、黙ってて」……それを突き詰めると**コミュニケーションの否定**となってしまうのでは？

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 10

10



## 「受け入れるふり」と「ガラスの壁」

1. 自らの理解を超えるような異文化に遭遇した
2. 異文化の壁を乗り越えようと、とりあえず相手を**受け入れるふり**をする
  - それは文化が違うからだ
  - そういう文化もそれそのものとして価値を認めよう
  - 文化が違うからしかたない
  - 自分たちだって同じだ
  - 他人の文化を否定するのはよくない
3. それは実は**思考停止**になってしまっている
  - 自分と他人の間の「壁」は、解消されるわけではなく、実際には**分厚いガラスの壁**となって、お互いの声の届かない・コミュニケーションが断たれた状況に陥ってしまう

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 11

11



## ガラスの壁をつくらないために

- 「文化が違うから、違うんだ」で思考停止して、分厚いガラスの壁をつくらないためには、どうしたらよいのだろうか？
- 鍵となるのは、文化相対主義は**他者理解の手段（ツール）であって結論（ゴール）ではない**、という点
- 自己の相対化ののちに**相手との対話が必要**とされている（理解と対話の出発点）
  - 「相手とちゃんと話をしよう」と考えるための**お互いの前提**として、「自己中はやめようね」「お互いの文化を尊重しようね」というところを**出発点**とする
- 出発したあとどこに向かうかは、**どれだけのコミュニケーションを重ねられるかに大きく左右される**

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 12

12



## 「文化の翻訳」という問題(1)

- 「猫食」を理解しようとしたときに、たとえば〈日本人—くじら〉の関係と〈中国人—ねこ〉の関係を等しいと考えるやり方がある
  - それは「拒絶」に陥らずに、ショックを緩和する意味で、大切なはじめの一歩
  - ただし、それは「翻訳」であって「理解」ではないのに、「理解した気になる」のが問題
    - ex. 英語の看護のテキストを、がんばって日本語に翻訳した……それだけで、その看護書の内容を理解したことになるか？ というと、ならないはず
- **異文化を「翻訳する」ことと「理解する」こととは違う**
  - 猫を鯨に置き換えようとするのは、実は「文化の翻訳」にすぎない……間違った翻訳 = 誤訳の可能性が少なくない

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 13

13



## 「文化の翻訳」という問題(2)

- 古池や 蛙飛び込む 水の音  
と、  
Old pond---frogs jumped in---sound of water (ラフカディオ・ハーンの英訳)
- 両者を完全にイコールで結ぶことは無理だが、だからといって、両者がまったく違う、ということでもない (100点ではないが0点でもない)
- 100点に近づけるためには、日英の**文化的背景の説明**に何万という言葉をやさなければいけないだろう →**文化の問題も同じでは？**

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 14

14



## 異文化理解とはどういうことか？

- 中国における猫食の**文化的背景**
  - 猫<虎（あるいは蛇<龍）という比喩的關係
  - 漢方や医食同源といった思想
- 同様の事例は、他にもないだろうか？
  - 日本におけるうなぎ食や、韓国における犬食
- 猫食の**文化的背景**を知っての「翻訳」と知らないでの「翻訳」は意味が違うし、当然「理解」にも差がでる
- **異文化理解とは、「文化の背景・理由・詳細について知ろうとすること」である**

2025/5/13-3限 2・異文化理解と自文化中心主義 15